－所蔵作品紹介－

板津　邦夫　ITAZU Kunio

夜の日時計

よるのひどけい

作品データはこちら

板津邦夫は札幌生まれで、戦後旭川に長く在住して木彫を制作し続けている。その活動の主な舞台は自由美術展（1965年会員）、道展（1959年会員）などで、「北海道の美術」展（北海道立近代美術館主催）、「北の彫刻展」（札幌彫刻美術館主催）をはじめ道内の各美術館の企画展にも出品し続けてきた。1995年に北海道教育大学旭川校教授を退官し、翌年には旭川市彫刻美術館で個展が開催された。

この作品は、作者の個性が最も良くうかがえるもので、長いねじ釘のような筒を中心にした直立するシンボリックな形である。それは例えばトーテム・ポールのような民族的な造形を思わせるとともに、ナンセンスな題名を含めて、どこかブラック・ユーモアの要素も感じさせる。木の素材感は良く生かされているのだが、それに寄りかからず、素材と表現内容との感覚の微妙なずれの部分で作品を味わいの深いものにしているのである。

「北海道立旭川美術館コレクション選集1982-1997」（1998年３月発行）より